

キス（シロギス）の釣り方・誘い方（ボート釣りの場合）

1 はじめに

「たくさん釣る」ことをモットーにしています。釣れた時のことを繰り返し再現すれば、たくさん釣れるはずです。そのために記録を残しています。これまでの記録から、ボートでキス（シロギス）をたくさん釣る方法や誘い方をまとめました。

2 ボートでのキスの釣り方・誘い方 —基本的なところ—

- 流し釣りとかかり釣りがあるが、広く探ることができるので流し釣りがよい。
- 仕掛けが着底したら、仕掛けが同じ場所に留まるようにし、誘いをかけて喰わせるという方法で釣る。
- ボートの移動でおもりが底を引きずっていても釣れるが、たくさん釣るためには、おもりが底を引きずらないにして、誘いでキスに餌を喰わせる。
- 竿は立てて釣る。

3 ボートでのキスの釣り方・誘い方 —具体的な方法—

- 仕掛けを落とした時、仕掛けが沖に流れていくような向きに座る。
- 仕掛けを落とした時、仕掛けが沖に流れていくような向きにボートを止める。
 - ① 仕掛けを真下に落とす。
 - ② おもりが着底したら、竿先を立てながら道糸を出す。
 - ③ ボートの移動が遅い時は、糸ふけをとり、道糸をピンと張る。
速い時は、自然と糸ふけがなくなる。
更に速い時は、竿を1～2回振って道糸を更に1～2m出す。
 - ④ おもりが底を引きずらないように、ボートの移動に合わせて竿先を下げしていく。
 - ⑤ 竿先を下げている途中で誘いをかける。
※ボートの移動が速い時は誘いがかけられないから、竿を下げるのを止めて、おもりが底を引きずるようにする。これが誘いとなる。
※誘いをかけた直後に当たりがあることが多い。
 - ⑥ 竿先が水面の方に向いたら、道糸を出しながら竿を立てる。
 - ⑦ これを2～3回繰り返し、当たりがなければ餌のチェックをする。

○ボートの移動速度が速すぎて、おもりが底から浮いてしまう場合は、おもりを重くする。

○風も潮も止まりボートが移動しなくなった時は、投げて釣る。誘いは時々さびく。さびく代わりに、竿先を上にあおるという方法もある。

4 誘い方

- 竿先を1回‘チョン’とあおる
- 竿先を2回‘チョンチョン’とあおる。
- 1回の時と2回の時では釣果が変わったことがあった。
→ 2019年6月29日 玉や（木曾岬）キス 自分36尾（誘い1回） ツレ63尾（誘い2回）
- これまで、誘いを自分は1回、ツレは2回入れていた。以前から、自分が釣れる時間帯とツレが釣れる時間帯とにずれがあると話していた。誘い方の違いが原因の一つだったように思う。

5 誘いの頻度

- 誘った方がよく当たる。
- 誘いすぎると当たらない時がある。こんな時は誘いすぎない。誘いと誘いの間隔を広く取る。
- 置き竿の方がよく釣れる時がある。この時は誘わない方がよい。
- キスの活性により誘いの頻度を変える。

6 当たりがあった時

- 合わせない。よく食い込むまで待つ。即合わせは絶対にダメ。
- 竿先を送り込む(引っ張るのではなく、反対に、竿先を道糸の先の方へ出す)。特に、ついばんでいるような小さな当たりの時は、送った方がよい。
- 送り込むことによって、即合わせを避けることになり、よく食い込むまでの時間を作ることになる。

7 その他

- 釣れないところで釣っていても釣れない。場所を移動する。釣れる場所を探す。
- 釣れるところで釣る。ボートを流していく時、釣れるコースを見極め、同じコースを流す。10mくらいを往復したことで、釣果を上げたこともある。

8 おわりに

たくさん釣るには、当日のキスの活性を見極めことです。誘わないと釣れないが、誘いすぎても釣れません。このことを常に頭に入れておくと良いと思います。